

☆私の意見

久々の神戸の秋に 思うこと

若林 和男

△洋画家・在ブラジル△



十五年目の神戸の秋は、文字通り、美術の、オシャレの、そして味覚の秋であった。市中で催おされた、それぞれの美術展には老若男女が溢れて、街は、季節のコレクションで飾られた服飾関係の店を中心に、ありと、あらゆる商品が空間を埋め尽くしているようです。道を行くとそこには軒を連ねて日本の各地はおろか、世界の料理が人々を待っているようでもあります。

豊かだなあ、とかつての神戸っ子である私は、現在の身の上、パウリスタであることを一瞬なげくのですが、一方、まてよ、という思いも同時に浮び上るのです。

ブラジルの一見、ちらほらの美術展の会場には、自分の目で確かめた作品を、自分のものにしたいという意志をもった観賞者が、行きつ、戻りつの姿でそこにいるし、また、日本の様に確かな四季を持たぬ我が国では、季節のオシャレは、オシャレの出来る人達だけに意味があり貧しい人達には、一枚のジャケットやカーディガンが彼等の冬衣裳であるわけで、中産階級の多い、サンパウロやリオデジャネイロの市民生活は別にして、一般には、まことに質素な印象も受けるのですが、仕事が終れば一応真直ぐ家庭へ帰り、家族そろっての夕食は、日本のようにバラエティに富んではないでしょうが、充分の時間とボリュームを持つていて、テレビをつけっぱなしの食卓風景や、外で、男だけが、或いは、OLばかりがおいしいものを頂くといった、イビツな風習は持たないようであります。

四、五年おきの帰神のたびに、我が故郷の街が美しくなり、街路の緑や、ビル街の花壇を見るたびに、大変嬉しく思います。しかし一方、演劇や、音楽会のように、絵は、セットされた会場へ行つて観るだけのものだと思つてゐるらしい市民が、ちよつと上等のコケシ人形を買うくらいはのんびりした市民が、それを手に入れることを考え始めた時、或は、街を行く大方の紳士の様に短いズボン姿が、御婦人のファッションにつり合いのとれる時迄、本当に嬉ぶのはよそうかとも思うのです。

チャコとパパ

吉村 一 夫／音楽評論家▽

日本中の「久子」と名乗る女性の子供の頃の愛称は、ゴルフの樋口久子も含めて、まちがいなく「チャコ」である。日本人にも発音しにくいハ行とサ行が重なっているのだから、幼い廻らぬ舌では「チャコ」と自称するのはいたって当然である。大阪弁ではサ行を抜くことが多い。発音が面倒なので省略するのである。「へー、おま」「なんだ？」は「おます」「なんだす」の「す」を抜いたのである。

東京人が大阪の話に入ると「なんだ」とくる。「なんだとはなんだ」と憤然と座を立ち去るのである。「あんたカレーでっか、ほな、わてハイライにしま」という具合で、ハイシライスのシとスを抜く忙しさである。

辻久子のパパ、辻吉之助なる御人も言葉はひどいものである。アパート、デパート、ブラットフーム。ブラッと呼ぶ所と誤っているらしい。「日本にはええチェロニストがおらんからなー」と彼は嘆く。彼にいわせるとフルートニストであり、バイオリンで全てがニスト付きである。そのくせバイオリンの先生となると滅法勤が鋭く有能である。彼が手ほどきした日本の名バイオリニストは少くない。学生時代、ひょんなことから辻

吉之助弦楽合奏団のバイオリンを頼まれて、天王寺松が鼻にあった彼の自宅を訪れたことがある。変骨者で、弟子は少く、貧乏のドン底にあったが音楽については意気高く、口角泡をとばしての音楽談義が始まる。ここで幼いチャコとの対決が始まったのである。バイオリンを奏くのに学校は邪魔や、と学校にもやらず、八才か九才で松竹座の幕間演奏に出たのもその頃である。怠けるといって、夜半に数枚の下着を背中にくくりつけて家を追い出し、近所の人の詫で漸く家に入られた逸話もその頃である。パパは自らのバイオリンへの悲願を娘に託したのである。近所の人が「あれでホンマの親娘やろか」と疑うほどのきびしい試練を一人娘にぶつけた彼は、心で泣いていただろうが、そんな素振りは見せなかった。

チャコが十二才の頃、未だ小学生だったが、コンクールを受けることになった。東京行きの旅費がなく、平常から少し余裕があると五十銭玉を畳の間に落としておくのが「吉ちゃん」(私達は彼をそう呼んでいた)の貯金法だったが、それも尽きはて、彼の親友であるピアノの故金沢孝次郎氏に借金をするために、高下駄ばきで歩いて天王寺から、天下茶屋に行ったという裏話がある。その

頃私は夙川に住んでいて、コンクールの課題曲の楽譜を世話し、その打合せで拙宅に一人でチャコが来たことがあった。バイオリンを奏くと闘志が漲り、喰いつきそうな形相である。「今日はパパもおらんし、外のブランコで遊んでおいで」というと「嬉しいわ」と、とび上るように夙川の提防にあるブランコに走って行った。「矢張り子供だな」と胸が熱くなったことを覚えている。

コンクールは第一位、その上最初の文部大臣賞受賞という吉ちゃん父娘の最良の日であった。その最後の演奏会が日比谷公会堂で開かれ、彼女は少しトチったのだが、楽屋に帰った彼女は悔し泣きに泣き伏して、「あんなことしたらなんぼ文部



筆者(右)の誕生パーティで。左が辻久子さん(昭和30年頃)

大臣賞貰うても、なんにもならへん」と泣き止まなかったそうである。すでに受賞が済んでのことである。十二才の小娘の怖しいほどの執念の激しさには圧倒される気迫を感じるとともに、空恐ろしさに近いものを感じるのである。この激しい気迫は、親娘相伝のものらしく、吉ちゃんにも、「気骨」といえる頑固さがあったが、ともに外面に表わすことは少く、節度を守る自制心の持主でもあった。この親娘の逸話を集めると、楽に一冊の本になるほどである。いつも「久子はべっぴんになったやろ」と目を細くして自慢する吉ちゃんである。最初の奥さんを亡くし、その二人の遺子の中の長男を早く亡くし、全ての期待と祈願が久子一人に結集したのである。チャコはパパの生甲斐であった。チャコとは何回か演奏会を共にし、私が話して彼女が演じるのだが、そのギヤラは、彼女の十分の一以上ではなかった。演奏の前に、三十分もかけて音階を全弓を使ってゆっくり上り下りることを一度も欠かしたことがないのには、今でも感心している。なかなか出来ないことであり、立派なプロ意識である。

偶然に街頭で彼女に会った。「クラブで卓話を頼まれてきたんや」という。「音楽の話したんか」「いいや禅の話してきたんや」「忙しいのに、ようそんな本読むひまがあるな」「いや、読まへんねん。日本中のいろんな所でいろんな人の話聞くやろ、それを自分流にまとめた耳学問やねん」驚くべき才能である。うるさ型の財界のおエラ方が「さすが一芸に達した人は、ええ話するな」と好評である。耳学問こそ、目学問優先の日本人に欠けているし、特に音楽では最も大切である。

□れんさいずいそう

元町ストーム

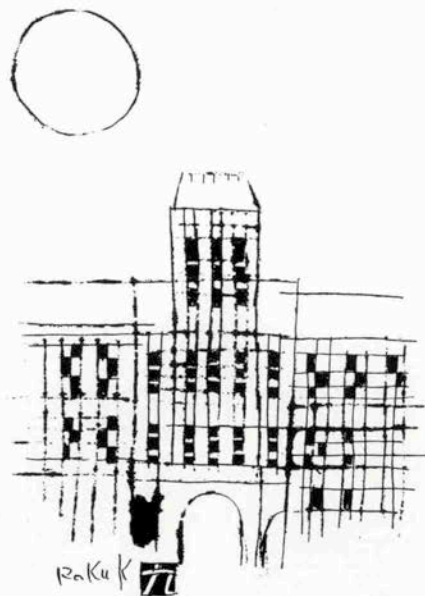
— 甲南学園と神戸 △3▽ —

和田 邦平 △甲南大学教授▽

え・貝原 六一

最近東京をはじめ大阪、名古屋など各地で行われる「寮歌祭」に参加して旧制甲南は持ち前のスマイルさを持って声価を上げている。昭和初年の甲南寮は、寮といっても小人数で、寮祭などはなかった。しかも甲南では下駄をはいて校内に入ってもお目玉を喰った。これは平生先生の主義に共鳴した生徒監大倉本澄先生の方針であった。

ところが年一回恒例の「浪甲戦」の対抗野球戦が宝塚球場で行われる日、勝敗に関係なく、応援団の有志は大挙元町へ繰り出すのがならわしになっていた。いわゆる元町ストームである。



浪甲戦は、一高対三高、あるいは早慶戦にも似た好敵手ぶりを発揮、多感な男の子等の血潮を湧かせたものである。当日は阪急沿線の各駅に「両軍応援団総出動」という文字の大きなポスターが貼り出され、阪神間の初夏の風物詩として年中行事の一つとなっていた。

当時の野球部のOBには、たいへん失礼なことだが、甲南の野球はラグビー・テニスの校技と異なり、高校一流クラスとはいえなかった。でも当日は対抗戦にふさわしく興奮した応援合戦に呼応して張り切ったプレーが行われた。応援団といっ



対浪高野球戦の夜に繰りだした元町ストーム（昭和12年6月）提供・仮家達朗氏（旧制13回理科）

でも組織だったものではなかった。リーダー格は、ちょうどシーズンオフのラグビー部員がつとめた。キャプテンが団長ということで、生徒総代（級長）が副団長をやれということで、私も昼休み、スタンドの練習に旗を振った記憶がある。全校生徒の大半が応援練習を積んで、岡本駅から団体貸し切り電車で、宝塚南口へ、そこから遠征応援歌を歌いながら隊伍整然と宝塚球場へ繰り込んだのである。

昭和十年六月十五日「浪甲戦」は5A対2の戦

勝で、神戸へ繰り出したストームの群れは、応援歌・逍遙歌・勝利の歌を歌いながら怒濤のように踊り回った。そして飲み屋の前に大氣勢をあげたのである。これがいわゆる元町ストームの最初であった。

翌十一年と翌十二年は連続して完敗したが、両軍の応援団は東西に分かれ、浪高は大阪心齋橋で、甲南は神戸元町で、ストームだけは年々盛んになり、残念ストームだけに、悲愴感があり、青春の血をたぎらせ、発散させることには充分すぎるほどで、高井宗官氏が近所の寺から借りてきた太鼓を打ち鳴らし、元町いっぱい広かったストームの群れは思い思いに意気と熱とをたぎらせた。今日でいえば、無届けデモにもあたるわけであるが警備の警官など一人も出動せず、まことに秩序整然？一面まことにのどかな時代であった。

昭和十二年のストームの写真を見ると、現在は会社の社長・重役、また大学の教授、病院院長におさまっているOBたちのわかし日のおもかげや、とりわけ何人かの戦死されたOBの元氣な姿が拝されて、感慨無量である。元町のスマートな復興ぶりと合わせ考える時、かつての甲南に学んだ神戸っ子の反骨ぶりがなつかしい。



和田 邦平

大正8年生れ。甲南高等学校文科乙類卒。京都大学文学部卒。現在甲南大学文学部教授。神戸市は各都市文化財審議会委員を歴任し、現在、兵庫県文化財保護審議会委員、兵庫県芸術文化委員幹事などをつとめる。

□ある集いその足あと

文楽同好会

「暁 会」

渡部 暁子

△晩会主宰▽

晩会が発足した日、実ははつきりしない。私たちが初めて文楽を観たのが、昭和44年1月、大阪・朝日座のことであった。日頃仕事で接する外人さん達が、能・歌舞伎・文楽を意外によく知っており、私たち日本人が日本の古典芸能を知らなさすぎるのが、朝日座まで足を運んだきっかけとなったのである。

「要するに人形浄瑠璃がどんなものかさえ分ればよく、文楽を観た



吉田襄助さんの芸談を聞く会 (74.8.24 国際会館会議室にて)

ことがあるという既成事実だけが必要だった……。文楽なんて大さわぎする程のものではないな」と思いながら観ていた。ところが、「のれん口からのぞいた梢の上に視線がおちた時、私は思わず息のんだ。それはそれまでにあこがれていた宝塚のスター達や映画女優などとは似ても似つかぬ異質な魅力だった。人間でもない、人形でもない△娘心▽そのものが着物を着て熱っぽく動いていた」この感動が私たちを文楽へ引きつり込んだのであった。

以来、人に会えば文楽、文楽と勧誘。これが晩会の生まれた時である。だから「文楽同好会を称しているが、世の同好会のように文楽好きが集って結成した会ではなく、その呼び方が意味するものとは少し内容も性格も異なり、本来ならば△文楽の宣伝普及、並びに同好会に至るまでの過程会▽とも呼ぶべきもの」なのである。

客席から観ていた私たちが、初めて楽屋に足を踏み入れた時が、桐竹紋十郎さんとの出会いであった。紋十郎さんとお正月公演にはできるだけ多くの人を誘って来ますと約束したものの、なかなか思うように集まらない。紋十郎さんが文化功労賞受賞直後のお忙しい時、その人集めのために山田五十鈴さんが出演する映画「生きてい

る人形」を貸してくださった。Y M C A の講堂を借り、無料公開。集まったのは主催者側六名、観客五名。失望。次にステラマリス中央教会で上映。主催者側四名、観客四名。この悲惨な経験のおかげで、紋十郎さんの切実な気持ち私たちの実感となり得た。

この日から私たちの熱心な勧誘が始まった。その結果正月公演の申込みが92枚。しかし、これも紋十郎さんのおかげである。というのは、この公演に限り、昼の部と夜の部の幕合に紋十郎さんご自身の人形解説がつき夜の部終了後には舞台の構造を見せて下さるというおまけつきだったからである。

次に職場を同じくするノルウェーの人たちにもこの文楽熱が感染した。文楽に関するすべてのことをプリントし、解説した。

このようにして晩会のスタート時代に、思いもかけなかった暖かい手が私たちを守ってくれた。以後、現在第12号になる機関誌「あかつき」の発行、各公演の後での合評会などを開催しながらの歩みである。ともあれ、文楽を通じての人との結びつきの集合、地道な歩みは会員たちの奉仕で成り立っているのである。

(機関誌「あかつき」より)

問い合わせ 〓 658 東灘区御影山手2丁目11番12号「晩会」

美術 古骨 剣書 刀画



平戸焼薄端 ¥350,000

鑑定 買入

刀剣研磨その他工作

一ヵ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

剣術 美術
刀古骨

元町美術

〒650

TEL078-351-0081



きもの細貨

おんがら屋

神戸

本部・仕入部
本店
さんちか店

神戸市東灘区青木五丁目一五〇一
市街地改造により工事中 昭和五十二年未完成予定
神戸市生田区三宮町一丁目一
電話〇七八三三三二一七〇〇

(代)

銀座コア店

東京都中央区銀座五丁目八二〇

電話

〇三五七三三二九八(代)

渋谷東急店

東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一

電話

〇三四七七三三〇九(直)

東京

日本橋東急店

東京都中央区日本橋通一丁目九二

電話

〇三二二一〇五一(代)

池袋バルコ店

東京都豊島区南池袋一丁目二八二

電話

〇三九八七〇五六一(直)

(四階きもの小路)

純白無垢



ドイツ菓子 **Fachheim's**
ユーハイム

本 店 三 宮 生 田 神 社 前 TEL (331) 1694
三 宮 店 三 宮 大 丸 前 TEL (331) 2101
さん ち か 店 三宮地下街スイーツタウン内 TEL (391) 3539

わたし、いつもフレッシュ!

《営業品目》

- 高級服に……スベシャルクリーニング
- ゆきとどいた……スタンダードクリーニング
- 雨・シミをはじく……リペール加工
- ぬれない・汚れない……スコッチガード加工
- 消えない折目プレス……エバークリース加工
- 出張サービス……カーペットクリーニング
- 毛皮・皮革・十モノ類……高水準クリーニング



あなたのファッションをFRESH UP!

ニシシm

神戸市灘区記田町1 ☎078(851)2440

山手店 三宮店 熊内店 宝塚店

浮き防波堤

諸岡 博熊

△神戸市企画局参事V

沖合から押し寄せる波のエネルギーを弱めて海岸地帯をまもろうとするものに、防波堤がある。

これは、海底から石のマウンドを積み重ねて、上部に、コンクリート製のケーソンを置き、さらにブロックを積んだ形式をとる。

ところが、海底部が軟弱などころでは、この方式が割高となり、場所によっては、建設が非常に困難なところすらある。

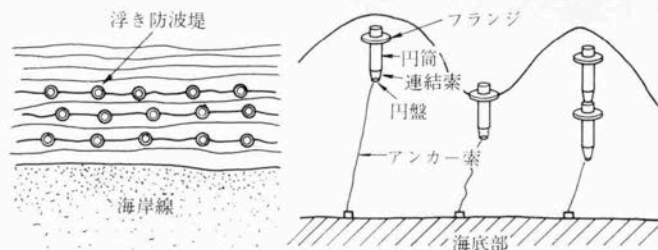
そこで、海底に有孔パイプを布設して、有孔部から空気のエアを噴出させ、波浪エネルギーを吸収しようとする実験が試みられている。

これは、理論的には可能なのだが、海水による有孔パイプの腐蝕や空気の送り方その他経費等で完全な実用化に至っていない。

アメリカで最近登録されたパテントのなかに「浮き防波堤」があったので紹介することとする。実用化はみていないが、浮きの余剰浮力を利用するユニークなものである。

各個の浮きは、海底にアンカーされていて、これを多数に並べて波浪エネルギーを吸収しようとするもの。その構造は、下端の開放された茶筒のような円筒を一つまたは二つ。さらに、円盤を最下部にぶらさげて、全体をアンカーする。なお、円筒の上部には、帽子のツバのようなフランジがついている。

円筒と円盤とアンカーは柔軟性のある連結材で結ばれているので波浪時、上下移動が可能である。波の山と谷がこの浮きを通してるとき、各円筒内、円筒相互間、



浮き防波堤 左は上から、右は横からみたところ

および、円筒と円盤間が相対的位置の変化に起因して水量が変動する。その結果、水平方向の流速の水平成分が発生する。したがってその反射波と逆流はその速度の水平成分を減小させる。ところが、浮きは、上下方向の移動が制限されているので、波の垂直成分も減小させることとなる。と同時に、浮きの上下制限の結果生ずる空隙を波浪の運動方向に沿って形成された水流が満たすことになって、波浪の垂直速度成分を減小させる。その結果全体として、波浪の運動エネルギーとその高さは減小することになる。

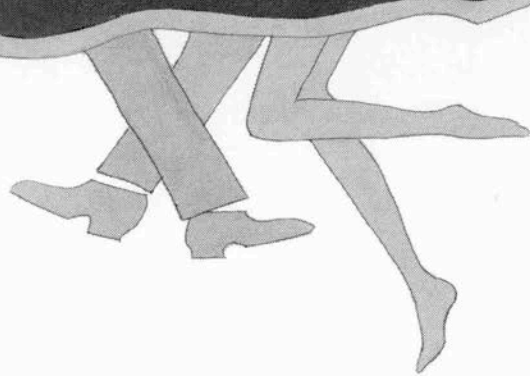
浮き相互間の距離は、これに作用する力と予想される波高との関係を計算して決められるが、波高が、一・五メートル未満の場合には、その距離は、一・五メートル以内にする必要がある。より大きい波高では、この距離を十五メートルまでに増大させることは可能である。

なお、浮きの大きさは、波高に応じて変わるが、例えば、一・五メートル未満の波高では、高さ四・八メートル以内、直径二メートル以内、容積十三立方メートル以内とされている。さらに、この場合のフランジの直径とすの垂直寸法との比は、二〇対一としなければならない。

□オールド コウベ/特集(1)

神戸・神戸・神戸

淀川長治 (映画評論家)



ユーハイムでちょっとだけビスケットが買えた
それとそれとそれとって七個くらい買えた
紙の袋に入れてくれた。

フロインドリーブへ行ってチョココレートもまた
ちょっとだけ。これも七個くらい。紙の袋だ。
これが午前十一時ごろだった。それから市電で
新開地の松竹座へ行く。

これは昭和の初め。私の
中学生時代。ユーハイ
ムやフロインドリーブで
アレとコレなんてビスケ
ットやチョココレートを、
その小さなのを七ツハツ
と、それくらいだけ買え
るところが神戸だった。
五個買っても小さな袋に
入れてくれた。

×

生田筋でエヴァンタイ
ユという店を私の家がや
っていた。姉がこの店を
デザインし、仕入れもや
っていた。昭和の四年ご
ろである。

エヴァンタイユとは(扇)のこと。神戸は扇港
と呼んだのでそこから店名を思いついた。神戸の
小磯画伯か詩人の竹中先生かに御相談してつけて
いただいたと思う。

外国美術品店なので、フランス語で(ラール・
エヴァンタイユ)と名づけたのだが、いつのまに
かひとくちでいえる(エバンタイ)と呼ばれて御

ひいきを受けた。

×

この店で私も足かけ二年働いたが、フランスのシャンデリヤやチェコの大きなカット・グラスが売れた。ペルシャのカーペットもお買いになる。たいがい阪神間のお屋敷へそれらはおごそかにおとどけたが須磨の方へもおとどけたことも多い。ゆたかな神戸だった。

そんなとき、こちらも気が大きくなって弘養軒のビフテキを電話で注文した。

店の者みんなに一人まえ五円のビフテキは当時としてはぜいたくだった。なにしろ今で計算すると十万や二十万や五十万円の美術品が売れたのだから、おとどけをすませたあとのこちらも気が大きくなった。

その弘養軒のビフテキは出まえて持つてくる。

ビフテキの出まえ。考えてもいやらしい……と思うのは素人考えでこの出まえはコック場からアツというまに目のまえに……というホカホカの超大ビフテキだった。

大きな皿に山盛りの野菜をあしらったその中央に、盛りあがったビフテキのつやつやと光ったその香りがプーンとただよった瞬間は、超豪華の五円その大金が高いとは思えない。私はこの弘養軒のビフテキを（コックさんの芸術）として味わった。

×

神戸で私が楽しんだひとつに石鹼を集める楽しみがあった。メリケン波止場へ行く手まえの海岸通りにオリバー・エバンスとタムスン薬局がある。ここには珍しいハミガキや石鹼がある。コ

リノスという歯みがきや名も今は忘れたが香りの上等な石鹼があった。

いま思うとこれらはアメリカやイギリスのありきたりの石鹼やハミガキであったのだろう。

けれどもその石鹼やハミガキを包んだ外国の包み紙にプーンと外国の香りを嗅いでいい気分になった。大正の半ばのころだった。

×

その海岸通りのレインクロフォード。ここは西洋の当時舶来（はくらい）と称した高級雑貨店のちにエバンタイを持つようになったもののレインクロフォードへのあこがれがあったゆえである。

×

けれども神戸のハイカラはかかる地域からだけではない。布引の滝へ行くその滝の茶店にもすでにこのハイカラはしみこんでいた。

コーヒー・カップ、ティーカップが美しかった。コップでなくカップという感じだった。ぞうげ色のカップのそのふちが細い金色。スプーンもピカピカ光ってよくみがかれていた。コーヒーをその茶店のおばばにたのむとデミタスでつかと聞かれた。ここの滝のかみ手にツェンティ・クロスと称する二十の渡り石のあるけい流がある。毎朝ここの散歩を日課とする西洋人たちがこの茶店に立ちよって一服するうちにコーヒー茶碗やスプーンやティー・セットをこの茶店にプレゼントしたのちにちがいない。

×

神戸駅のそばにチョコレート・ハウスというピフ・カツのすぐくうまいレストランがあった。チ

ヨコレート・ハウスというからには喫茶店とまちがわれそうだが、すでに有名で誰もがチヨコレート・ハウスでカツを食いにゆこかといったものだ。ここのナイフとフォークがまた立派だった。

そのナイフはふかふかと厚いカツにちょいとふれただけでスカツとカツが切れた。チヨコレート・ハウスとはこのマツチ箱のごとき小さな洋食屋の表それに両わき、うしろ、全部がチヨコレート色のペンキで塗られていたからである。そしてその板敷きの店に靴音たててはいるや「ヘーッ、なにをおたべでつか」と小柄なおばあちゃんが前だれ姿で出てくるのがまた嬉しかった。

×

エバンタイをやっているとネクタイ一本でもお屋敷にとどけてくれと申されることがある。ネクタイ一本くらいと思われようがフランスでデザインしてイギリスで製作したそのノックスのネクタイはかんたんな洋服一着くらいの値段だったからである。フランスの美術ガラスやイタリヤのミラノの色ガラスの花びんやそれらはもちろんおとどけ（配達）することになる。たいがい車で見えられるのだがその車はこれから食事に出かけそのあと松竹座で映画というわけだからその車には品物をお願いできにくい。そこでエバンタイもアメリカ・オースチンとクライスラーの二台を持っていたのだが、これが遊びずきの姉の遊び仲間と姉の遊び道具となって夜の阪神間のドライブ・ウェイの車の競争となる。

いまではえらいお目だまを食う悪い遊びなのだが昭和三年ころは夜も十時となるとその阪神間を走る車は十五分ごとに一台みたいにしんかーんと

なる。そこを神戸の良からぬ連中が自家用車で競走をするのだ。呑気な時代であった。モガとモボの時代である。

×

兵庫の傘屋のおっさんが店で傘をはりながら奥に向って呼びかけた。「寒むいさかいブランケットきてんか」。

ブランケットのことである。つまり毛布だ。たいがいこれは日本語のケットという言葉になって今日は寒いからケットをきて寝ようというあれがブランケットからのケットのこと。ところが兵庫のカサ屋のおっさんがケットといわないでブランケットというところに神戸の面白さがあった。

×

元町の三星堂は私の中学三年時代のたまり場。よく行った。ここの二階が喫茶店でここで紅茶を注文するのが楽しみなのだ。銀のティーポットそれに小皿に二枚のレモンの切ったのがつく。シュガーポットも銀のピカピカ。一人まえで二杯ときには三杯も飲めるのが嬉しいのである。ポットつきなど昭和二年ごろにはハイカラそのものに見えるものだ。

×

神戸というよりも兵庫といったほうがびつたりその西柳原で幼年時代を送った私は、私の筋向いの西田政治さんの家に毎日のように遊びに行った。この政治さんの末の弟と私は遊び友だちだったからである。

しかし私がそこへ遊びにゆく目的は私の遊び仲間と遊ぶのではなく、実はずっと年上のその政治さんがアメリカからとっているニューヨーク・タ

イムズみたいな外国新聞の写真を覗くことだった。それにはいろんな映画や演劇の写真が出ていた。小学生の私はその西洋の新聞に嚙りつくようにして写真を見たのだが、大正の七年というようにころに兵庫の下町にアメリカの新聞のあることがやっぱり神戸だ。

×

六甲のゴルフも子供のころ連れてゆかれてあの白いタマを小さな手でさわりクラブを握ったこともある。小学二年のころだ。サイダーではなくウィルキンソン・タンサンという砂糖ぬきのサイダーというものもここで知った。

私の家には週二回明治屋が廻ってきた。元町から兵庫の西柳原にまで註文を聞きにくる。ネッスル・チョコレートもそれで知った。コイン形のそれが筒の一本の棒につめられた赤いピカピカ光った紙に金文字のネッスル・チョコレート。幼年時代それを楽しんだのも神戸。

×

活動写真が日本で最初に公開されたのも神戸。

明治二十九年（一八九六）。新しい文化を神戸はすべていち早く吸いとった。聚楽館は私に美の洗礼をした。大正十一年のアンナ・パブロワ一座のバレエ。聚楽館の入口両わきに「ひん死の白鳥」「とんぼ」の大きな二枚の外国製ポスター。私は足が釘づけとなった。神戸の聚楽館でパブロワや

デニシヨン舞踊団を見得たことで私は神戸に感謝したい。

×

そして新聞地だ。東京の浅草でアメリカの活動写真を見ることが神戸の新聞地で見ることができないぶその感じがかったと思う。パール・ホワイットの「鉄の爪」が「てつのつめ」ではなく神戸では「アイアン・クロウ」で一般の話題となった。

大正十三年ごろ映画館の伴奏が気に入ってはねたあとその演奏者をぜんぶ午後の十一時というのに自宅に招いて洋室の広い客間であらためて演奏をおねがひしたという映画好きもいた神戸。

×

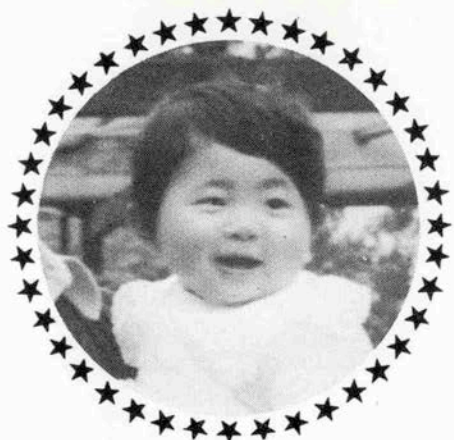
海岸通りのあき地にアメリカの「ヒップドルーム・サーカス」が天幕を張った。マチネーではクラウンたちの芸が子供たちを喜ばせ、夜ともなるとこうこうたるライトの光の中で本格的サーカスが演じられた。場内の半分は外国人たちで場内の売り子もアメリカ人だった。大声で呼びかけるコールカフェー。それが冷やしコーヒと知ったのもそのときだった。大正十二年ごろだったと思う。天幕の中にまでその夜は神戸の港の海の匂いがした。



イラスト

塩路 義孝

こんにちは赤ちゃん



小泉花子ちゃん/西宮市高塚町

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柁町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

幼児歯科 小児歯科

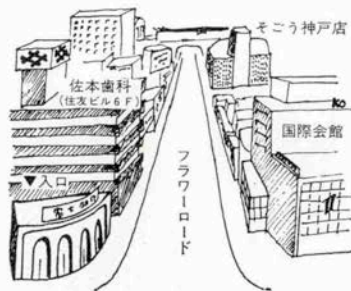
SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分
金曜日 午後1時30分
(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階
〒650 生田区加納町5丁目39
TEL (078)331-6302~3



オールドコウベ／特集〈3〉
座談会Ⅱ神戸の残影

懐かしいあの頃 優雅な時代やで

出席者

新谷

秀雄

(彫刻家)

陳徳仁

(神戸中華総商會會長)

大西

雄一

(神戸タグ協會會長)

デヴィッド・ハッター

(阪D・ハッター商會)

塩路

義孝

(大丸神戸店)

★最高の店が並んだトア・ロード

大西 このあいだ小松益喜さんと
今まで小松さんが親しんできた北
野町なり居留地なりの異人館が、
今どれだけ残ってるんだろうとい
う話をしたんですが、もう三分
の二以上は消えてしまってるん
ですね。

新谷 建物はなくなってますし
るけど、居留地って言葉も今は余
り使われなくなりましたがそれ
でもまだ居留地あるいは元居留地
っていい方は通用してますね。そ
れに北野町とか海岸通りとかの名
前が残ってますね。元町もそうす

し、トア・ロードも昔はトア・ド
ーロと呼んだ時代があったりして
ね。

塩路 トア・ドーロは戦争中
たね。戦争中は英語は困るって、
ロードがドーロになり、トアも漢
字で東亜ってなりましたね。

新谷 そんな風に今でも名前が残
っていると、その名前から郷愁を
感じますね。トア・ロードの山手
の方を見ると大きなトアホテルが
あって、あの真つ赤な屋根はとっ
ても印象的でした。

ハッター トアホテルは今、神戸
クラブになってますね。

大西 今の建物とはちがうんです

よね。

新谷 焼けたからね。

塩路 なかなか立派な、大きなホ
テルでしたね。しかも戦争で焼け
たのところがうんですね。戦後、
進駐軍の看護婦の宿舎になってい
て、アイロンのかけっ放しから火
事になって焼けてしまったん
だね。

新谷 このトアホテルとオリエン
タルホテルを結ぶ一直線の路、ト
ア・ロードがまた楽しい路でした
ね。ハイクラスのセンスの通りで
床屋さんにしても、パン屋も肉屋
も最高の店がずらっとならんで
いました。非常にエキゾチックでし

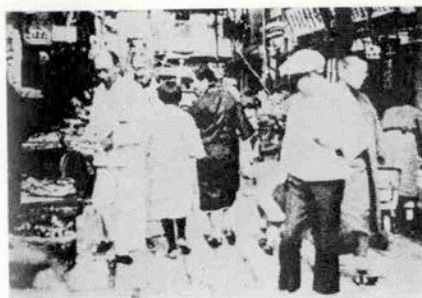


たね。

陳 道幅がもっと狭くてね。それだけに親しみがありませんね。

新谷 階段をトントンと上って入っていく店なんか、とても立体的な感じで、ちよつと日本ではみられないような雰囲気を持ってましたね。

塩路 トア・ロードの真中あたりにおール・セント・チャーチがあ



昭和7年頃の南京町

りました。とってもきれいでしたね。今の税務署の位置ですね。ハッター それとヒル・ファーマシーって薬局がオール・セント・チャーチのちよつと下の方にありました。今のアメリカン・ファーマシーのあたりです。

大西 何でも気の利いたもの、ハイクラスなものは、トア・ロードにあったんですね。

塩路 中国人の洋服屋さんがたく

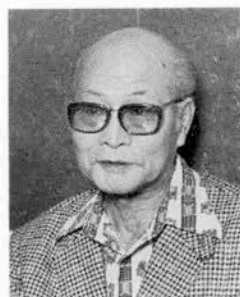
さんありましたね。

大西 洋服屋さんはたいていが中国の人みたいでしたね。

ハッター 今でも多いですよ。

★ハダに合った南京町の雰囲気

新谷 南京町まさにチャイナタウンって感じでしたね。



新谷秀雄氏

陳 あの頃53軒あったのが、今は20軒が残っているだけです。

新谷 服装にしても中国の人は中国の服装をしてましたね。はきものも。

大西 南京町にはいいものが安く



大西雄一氏

豊富にあったんですよ。

塩路 南京町しかなかったかもしれないですね、あの感じの市場は。

大西 南京町で買うのが、いい買

物で、何となくハダに合ってたみたい。

塩路 トアホテル付近など、山の手の外人もみんなたいていこまで買いに来てましたね。

陳 船からのお客さんも多かったですよ。

大西 〆陳さんは博愛酒家の息子さんで、なかなかハンサムな坊ちゃんやったな〃ってこないだ人と話をしてたんですけど、私もよく行きましたよ。

陳 それはどうもありがとうございました。(笑)

塩路 藤田嗣司が来ると必ずトアホテルに泊って、そして朝飯を食べに行くのは、南京町まで下りていって博愛酒家って決ってましたね。今の南京町の真中あたりでした。

陳 民生のすじ向いです。

塩路 民生は戦後の建物ですね。

新谷 元町の明治屋の向いの路地を入ったところに杏香楼って中華料理屋がありました。

塩路 あれはもつと南の方とちがいましたか。

陳 確か海岸通りでしたね。洋館ですね。

ハッター えらい古い家でしたね。(笑)

大西 割合安くね。学生の頃良く行きました。

ハッター 確かによく流行ってま

したね。食事もけっこう美味しかったですよ。

新谷 その当時ね、杵香楼にしても第一楼にしても、つまみの皮なんかで床がとても汚れてるんですよ。へきたないなあ、へきたないのが値うちや、それだけ流行ってる、へっていうことなんでしょうね。だからどんどん床に捨てて下さいっていわれたことがあ



元町のにぎわい 昭和初期

ります。

大西 あれは通ぶって捨ててるんですよね。(笑) カボチャの種なんかポンポン床の上に捨ててるんです。

★面影消えてしまった居留地

ハッター レンクロフオードってのが印象的でした。

塩路 レンクロフオードは、一番はじめはユニオンチャーチのとなり、今の三菱銀行のところにあっ



塩路義孝氏

て、しばらくしてから大丸の南側に移ったんです。英国系の百貨店ですね。ビクターレコードを買うにはここしかなかったんです。

新谷 オリエンタルホテル、商船ビル、明海ビル、あのあたりには柳が植わっててね、道には木レン

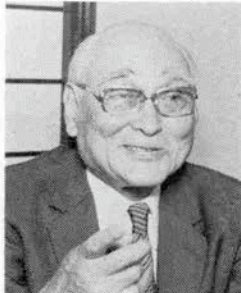


陳 徳仁氏

ガが敷いてあった。

ハッター そうでしたね。僕も柳があったのを覚えてるなあ。

新谷 木レンガってのは、油をしみ込ませてるので、ある時火事があった、歩道が燃えてるんです。それで、木ではダメだったというこ



デヴィッド・ハッター氏

とで赤レンガに変わったんです。大きな木レンガで、その黒い歩道がとても感じが良かった。やわらかいので、歩くとても感触がいいのね。だけどすり減りますから雨が降るとそのすり減ったところに水がたまって困りましたね。

塩路 今の大丸の駐車場のところにオリバーエバンス商会有りしました。その裏が、明治の中頃、ラフカディオ・ハーンが記者をしていたといわれる英字新聞社のジャパン・クロニクルがありましたね戦争で焼けたんですよ。

★昔の神戸は西高東低だったけど

新谷 当時、上筒井に関西学院があり、そこから今の国際会館の前の通り、そのころ滝道っていつてましたけど、このあたりがちよつとした繁華街でしたね。

大西 上筒井には、高級のバーがね、神戸でも一流のバーが集まっていたね。

ハッター 今は加納町の交差点に移ってるアカデミーがありましたね。

大西 アカデミーがバーの最初のものなら、今の形での喫茶店の始まりが、元町の三星堂の二階ですね。その頃、元町の西の方が人が多くて、たくさんの方が集まってくるんだが、その人たちがいわゆるたむろするに便利なところがな

かったんですよ。それでできたのが、この三一堂で、トイレが付いていた。その当時にすればトイレがあるのが珍しいわけですね。新谷 そういえば元町にはなかった。喫茶店がたくさんありましたね。赤マントで有名な画家の今井



昭和初期の加納町交差点（左）と三宮駅南（右）

朝路がやっていたランクルブルにそれに音楽喫茶のウイーン。大丸前にあったブラジレイロ。それにパウリスタがモーニングサービスをやっていたのもなつかしいですね。そして、生田警察がまだ三宮警察といった頃ですが、その前

にユーハイムがありましたね。木造の。

ハッター そのとに弘養軒っていうレストランがありましたでしょ。

大西 弘養軒のテキがね、あの当時、二円だったか、三円だったかとにかく早く弘養軒のテキが食べられるようにならんといかんと、若い頃思っていましたね。（笑）当時の二円、三円っていうのは大金ですからね。

ハッター 伊勢エビも有名でしたね。

大西 なかなか美味しかった。

塩路 味まで覚えてますか。（笑）ハッター 今だったら一万円はするんじゃないかな。

大西 その西の方、三宮神社が神戸のひとつのポイントになってましたね。

塩路 三宮神社の西横手に共同便所がありましたね。

一同 あった、あった。（爆笑）

塩路 こないだフトしたことであの便所がうつってる写真を見たんですが、とても格好いい便所でしたね。洒落た便所でしたよ。

陳 たいていの人が利用してましたね。（笑）

新谷 オールナイトの飲み屋が集まってましたからね。

塩路 三宮神社の境内は夜通しやってましたね。

ハッター 映画館もありましたでしょ。

塩路 確か三軒あった。

大西 連鎖劇つてのをやってました。優雅な時代や。（笑）

それでもあの頃の盛り場は西の方、新開地や福原、楠公さんの西の方はダメでした。その中で東門筋で、頑張ってるのがこの三宮神社の境内とさっきの上筒井付近だけだったんですね。

塩路 そうでしたね。多聞通りの和家具もひとつのポイントでしたね。

大西 多聞通りの南側、古湊あたりね。ここが和家具の市場だったんですね。

ハッター 多聞通りへ行くと、まざどんな家具でもあるってんで、わざわざ行っていましたよ。

大西 その頃が多聞通り、有馬道がひとつのショッピングセンターで、元町通りにかけて誓文払って大売り出しがありましたね。年に一回、十二月の下旬に。

新谷 今のバーゲンセールだけど元町あたりの商店街が暮になると一斉にやるんですね。欲しい物があっても誓文払いの日まで待ってたりしてね。（笑）

塩路 なかなか古き良き時代でしたよね。

△竹葉亭にて▽

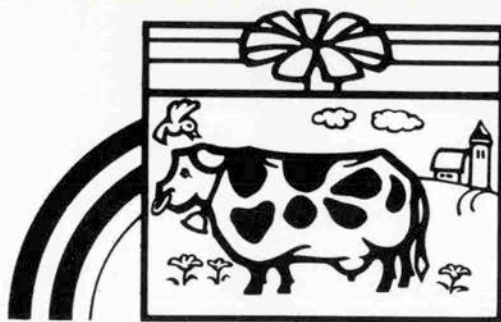


神戸っ子に愛されるエレガントな毛皮の数々

チンチラ

神戸・三宮センター街東入ロスタイルパレス3F
TEL 078-391-4457

フレッシュな製品をつくり
おとどけするのが
私たちの役目です。



取扱品目

牛 乳 ソフトミックス
生 ク リ ー ム コーヒー用クリーム
ケーキ用クリーム 各種アイスクリーム

株式会社

六甲牧場

神戸市灘区篠原6丁目1-25
電話 神戸(078)801-6000(代表)